

中里のカンデッコあげ



旧暦1月15日の夜に西木町の中里集落で行われている「カンデッコあげ」(国記録選択無形民族文化財・県指定無形民族文化財)が、2月12日に行われました。

カンデッコとは、朴の木で作った小型の鋏くわのことで、このカンデッコと胡桃くるみの木でつくった男根おこを注連縄しめなわの両端に結んで一対にし、これを神木である桂に五穀豊穰や縁結び、子宝などその年への願いを込めて投げ掛けます。掛かったカンデッコをはずし、栗や柿などの果樹に掛けると多くの実を結ぶと言い伝えられています。

当日は、地域の男性などがカンデッコを肩に掛け、神事に参加した後、カンデッコを桂のより高い枝を狙って投げ掛け、帰りには投げ掛けたカンデッコを持ち帰っていました。

五穀豊穰・無病息災を祈願

小正月行事「なろか」

古くから生保内地区に伝わる小正月行事「なろか」が2月12日、仙北市役所田沢湖庁舎前駐車場で開催されました。

当日は、正月中に飾られたしめ飾りなどのお炊き上げが行われたほか、なろか保存会の人たちにより温かいそばやうどん、あげパンが振る舞われました。

その後、ほら貝と太鼓を先頭にわら松明たいまつを持った子どもたちが、生保内神社まで練り歩き、五穀豊穰と無病息災を祈願しました。



光のファンタジー

白岩城址燈火祭

白岩村おこしプロジェクトS(代表・下田三千雄)が主催する「白岩城址燈火祭」が2月11日、角館町白岩平城を主会場に開催されました。

午後6時、白岩小学校6年生により館山参道に450本のかがり火が点火され、主会場のミニかまぐらの灯りとともに幻想的な光の世界をつくりだしました。

主会場では、元気白岩ひでこ節の踊りや火振りかまぐら、大綱引きなどが行われ、子どもから大人まで大いに盛り上がり白岩の冬のイベントを楽しんでいました。



館山のかがり火とミニかまぐら

松葉・相内の裸参り



西木町の松葉・相内地区に伝わる『裸参り』が、2月19日に行われました。

この裸参りは、明治10年5月の春風が強い日、松葉集落で火災が発生、集落を燃えつくして相内沢川を隔てた相内集落にも飛び火し、悪夢のような1日となりました。また、

松葉集落ではその年に、再び火災を起こしたことから、災難よけとしてまつられる四国の金比羅参りを実施し、お室とお札を受け帰村。地域の中央にある旭山に祠堂を建立。毎年2月第3日曜日に、無火災祈願の裸参りが行われるようになりました。

当日は、午前11時の花火の合図とともに4人の若者が檜木内川へ向かい、清流に飛び込み、身を清めました。

身を清めた4人は、わらで編んだ「けんだい」を腰につけ、白足袋にわらじ履きで、沿道からの声援を受けながら、かけ声勇ましく集落内を走り、一気に旭山に駆け登りました。



そして金比羅宮に無火災を祈願し、腰の「けんだい」と結びひもを切ったわらじを神木に結えつけ、お神酒をいただきました。